

f 12	C型肝炎については 1986 年頃に発症の診断を受けている（この時点では非 A 非 B 型肝炎の診断であると思われる）。 2002 年頃の診療状況は不明であるが、2000 年頃及び 2004 年頃に医療機関のフォローを受けている。現在は慢性肝炎の診断を受け、グリチルリチンによる治療を受けている。
f 13	C型肝炎については 1986 年頃に発症の診断を受けている（この時点では非 A 非 B 型肝炎の診断であると思われる）。 2002 年頃の診療状況は不明であるが、2000 年頃及び 2006 年頃に医療機関のフォローを受けている。2006 年頃には慢性肝炎の診断を受け、2008 年 2 月現在ウルソによる治療を受けている。

以上のとおり、感染の事実の認知日が 2002 年 7 月前で、2002 年頃の診療状況が過去に治療した者 13 人について、うち 9 人（f 1～9）は現在治癒しており、2002 年当時お知らせがなかったことによる治療の開始時期の遅れの可能性は少ないものと考えられる。2 人（f 10、11）は 2002 年頃の診療状況は不明であるが、それ以前にインターフェロン治療を受けており、C型肝炎の進行性も含め、感染の事実を認知していたと考えられ、2002 年当時お知らせがなかったことによる治療の開始時期の遅れの可能性は少ないものと考えられる。残りの 2 人（f 12、13）は 2002 年頃の診療状況は不明であるが、その前後に医療機関で受診していることから、C型肝炎の進行性も含め、感染の事実を認知していたと推察され、2002 年当時お知らせがなかったことによる治療の開始時期の遅れの可能性は少ないものと考えられる。

○感染の事実の認知日が 2002 年 7 月前で、2002 年頃の診療状況が無回答の者（3 人）の詳細（g）

g 1	C型肝炎の感染については 1987 年頃に認識している（この時点では非 A 非 B 型肝炎の診断であると思われる）。 2002 年頃及び現在の診療状況は不明であるが、現在は無症候性キャリアと診断を受けている。
g 2	C型肝炎については 1987 年頃に発症の診断を受けており（この時点では非 A 非 B 型肝炎の診断であると思われる）、1991 年頃に感染について認識している。また、本人は C型肝炎ウイルスの感染については、その進行性も含め、認知している。 2002 年頃の診療状況は不明であるが、現在は慢性肝炎で経過観察の診断を受けている。
g 3	C型肝炎については 1987 年頃に発症の診断を受けている（この時点では非 A 非 B 型肝炎の診断であると思われる）。 2001 年頃に肝硬変、2005 年頃に肝細胞がんの診断を同一の医療機関で受けている。 2007 年に肝細胞がんにより死亡している。

以上のとおり、感染の事実の認知日が 2002 年 7 月前で、2002 年頃の診療状況が無回答の者 3 人について、1 人（g 1）は現在、無症候性キャリアと診断されており、症状が進行していないことから、2002 年当時お知らせがな

かったことによる治療の開始時期の遅れの可能性は少ないものと考えられる。1人(g2)は2002年頃の診療状況は不明であるが、2002年頃にはC型肝炎の進行性も含め、ウイルス感染を認知しており、現時点においても経過観察と診断されていることから、2002年当時お知らせがなかったことによる治療の開始時期の遅れはないものと考えられる。残りの1人(g3)は2002年頃の診療状況は不明であるが、その前後に同一の医療機関に受診していることから、C型肝炎の進行性も含め、感染の事実を認知していたと推察され、2002年当時お知らせがなかったことによる治療の開始時期の遅れの可能性は少ないものと考えられる。

○2002年頃の診療状況が治療中・医療機関のフォローありの者(50人)の詳細(h)

h1	C型肝炎については1989年頃に発症の診断を受けている(この時点ではC型肝炎の診断を受けていたかどうかは不明)。2002年頃にインターフェロンによる治療を受け、HCV RNAが陰性化した。現在も経過観察の診断を受けている。インターフェロン治療による治癒と思われる。
h2	C型肝炎については1987年頃に発症の診断されている(この時点では非A非B型肝炎の診断であると思われる)。2002年頃はウルソ+グリチルリチンによる治療を受けているが、現在は無症候性キャリアで経過観察の診断を受けている。
h3	C型肝炎については感染認知の時期は不明であるが、2002年頃はグリチルリチンによる治療を受けており、同時期に肺がんの診断を受けている。2003年頃にHCV抗体陽性の診断を受けている。同年に肝硬変(肺がん合併)により死亡している。
h4	C型肝炎については1987年頃に発症の診断を受けている(この時点では非A非B型肝炎の診断であると思われる)。2002年頃にインターフェロンによる治療、2004年頃から2005年頃にかけてインターフェロン+リバビリンによる治療を受けている。HCV RNAは2005年頃から2007年頃まで陰性であり、現在、経過観察中。インターフェロン治療による治癒と思われる。
h5	C型肝炎については1987年頃に発症の診断を受けている(この時点では非A非B型肝炎の診断であると思われる)。2002年頃及び現在は慢性肝炎でウルソによる治療を受けている。
h6	C型肝炎については1987年頃に発症の診断を受けている(この時点では非A非B型肝炎の診断であると思われる)。1987年頃はインターフェロンによる治療、2002年頃及び現在はグリチルリチンによる治療を受けている(現在は慢性肝炎)。
h7	C型肝炎については1987年頃に発症の診断を受けている(この時点では非A非B型肝炎の診断であると思われる)。2002年頃は肝機能の上昇時にグリチロン等による治療を受け、経過観察と診断を受けている。現在は慢性肝炎で通院中であり、経過観察の診断を受けている。

h 8	C型肝炎については1987年頃に発症の診断を受けている（この時点では非A非B型肝炎の診断であると思われる）。 2002年頃はグリチルリチン、ウルソによる治療、2004年頃はインターフェロン+リバビリンによる治療を受けている。現在は慢性肝炎でウルソによる治療を受けている。
h 9	C型肝炎については1992年頃に感染について認知している。 2002年頃及び現在はグリチルリチンによる治療を受けている（現在は慢性肝炎）。
h 10	C型肝炎については1987年頃に診断を受けている（この時点では非A非B型肝炎の診断であると思われる）。 2002年頃及び2006年頃にインターフェロンによる治療を受けている（現在は肝硬変）。
h 11	C型肝炎については1987年頃に発症の診断を受けている（この時点では非A非B型肝炎の診断であると思われる）。 2002年頃はグリチルリチン+ウルソによる治療を受けていたが、2003年6月からインターフェロン単独、11月からインターフェロン+リバビリンによる治療を受けている。現在はインターフェロン+リバビリンによる治療を受けている。
h 12	1988年頃に肝機能障害の診断を受けている。 2002年頃はグリチルリチンによる治療を受けている。 2006年頃より2008年2月までインターフェロンによる治療を受け、現在はウイルスが陰性化しており、効果判定中と思われる。
h 13	C型肝炎については1988年頃に発症の診断を受けている（この時点では非A非B型肝炎の診断であると思われる）。 2002年頃及び2008年2月以降現在まで小柴胡湯による治療を受けている。
h 14	C型肝炎については1997年頃に発症の診断を受けている。 2002年頃はグリチルリチンによる治療を受けている。 2007年頃にHCV RNA陰性となっており、治癒の診断を受けている。 調査票にインターフェロン治療の記載はないが、治療による治癒と思われる。
h 15	C型肝炎については1990年頃に発症の診断を受けている（HCV抗体陽性）。 2002年頃及び現在はウルソ+グリチルリチン等による治療を受けている（現在は慢性肝炎）。
h 16	C型肝炎については2001年頃に発症の診断を受けている。 2002年頃には医療機関のフォローを受けているが、治療は行われておらず、2007年頃からインターフェロン+リバビリンによる治療を受けている（現在は慢性肝炎）。
h 17	C型肝炎については1986年頃に発症の診断を受けている（この時点では非A非B型肝炎の診断であると思われる）。 2002年頃は治療する必要がないと診断を受けており、現在は経過観察の診断を受けている（現在は慢性肝炎）。
h 18	C型肝炎については1986年頃に発症の診断を受けている（この時点では非A非B型肝炎の診断であると思われる）。 C型肝炎の認知時期は不明としているものの、1998年頃から2000年頃までウルソによる治療を受けていた。 2002年頃は経過観察の診断を受け、現在は慢性肝炎でウルソによる治療にて経過観察中である。

h 19	<p>肝炎については 1986 年頃にB型肝炎の発症の診断を受けており、1994 年頃にC型肝炎ウイルス感染の診断を受けている。</p> <p>C型肝炎については 2002 年頃に医療機関のフォローを受けており、2005 年頃にインターフェロン+リバビリンによる治療後、治癒の診断を受けている。</p> <p>インターフェロン治療による治癒と思われる。</p>
h 20	<p>C型肝炎については 1991 年頃に発症の診断を受けている。</p> <p>2002 年頃の治療内容は不明であるが医療機関のフォローを受けており、2006 年頃よりインターフェロン+リバビリンによる治療を受け、その後治癒の診断を受けている。</p> <p>インターフェロン治療による治癒と思われる。</p>
h 21	<p>C型肝炎については 1986 年頃に発症の診断を受けている（この時点では非A非B型肝炎の診断であると思われる）。</p> <p>1999 年頃、他疾患の治療を受けた際にC型肝炎ウイルスの感染を認知している。</p> <p>2002 年頃及び現在の治療内容は不明であるが、いずれの時期も医療機関のフォローを受けている（現在は慢性肝炎）。</p>
h 22	<p>C型肝炎については 1986 年頃に発症の診断を受けている（この時点では非A非B型肝炎の診断であると思われる）。</p> <p>C型肝炎ウイルス感染を 1989 年頃に認知しており、1997 年頃にC型肝炎の診断を受け、2001 年頃からインターフェロン+リバビリン又はインターフェロン単独による治療を受けている。</p> <p>2002 年頃に肝硬変、2005 年頃に肝がんの診断を受けるなど、医療機関のフォローを受けている。2007 年に肝がんにより死亡している。</p>
h 23	<p>C型肝炎については 1986 年頃に発症の診断を受けている（この時点では非A非B型肝炎の診断であると思われる）。</p> <p>診療状況については、2002 年頃に医療機関においてインターフェロンによる治療の同意が得られず、現在は慢性肝炎で経過観察の診断を受けている。</p>
h 24	<p>C型肝炎については 1986 年頃に発症の診断を受けている（この時点では非A非B型肝炎の診断であると思われる）。</p> <p>1994 年頃にはインターフェロンによる治療を受けているが、ウイルスは消失していない。</p> <p>2002 年頃及び現在は経過観察の診断を受けている（現在は慢性肝炎）。</p>
h 25	<p>C型肝炎については 1986 年頃から 1987 年頃に発症の診断を受けている（この時点では非A非B型肝炎の診断であると思われる）。</p> <p>2002 年頃は医療機関において治療する必要がないと診断されており、現在は慢性肝炎で経過観察の診断を受けている。</p>
h 26	<p>C型肝炎については 1987 年頃に発症の診断を受けている（この時点では非A非B型肝炎の診断であると思われる）。</p> <p>2002 年頃は医療機関において治療する必要がないと診断されている。現在は慢性肝炎でグリチルリチンによる治療を受け、経過観察の診断を受けている。</p>
h 27	<p>C型肝炎については 1987 年頃に発症の診断を受けている（この時点では非A非B型肝炎の診断であると思われる）。</p> <p>2002 年以前はグリチルリチンによる治療を受けており、2002 年頃は医療機関のフォローを受けていたが、患者の意向で治療をしていない。現在は慢性肝炎で経過観察の診断を受けている。</p>
h 28	<p>C型肝炎については 1987 年頃に発症の診断を受けている（この時点では非A非B型肝炎の診断であると思われる）。</p> <p>2002 年頃は医療機関のフォローを受けていたが患者の意向で未治療であり、現在は慢性肝炎で経過観察の診断を受けている。</p>

h 29	<p>C型肝炎については 1987 年頃に発症の診断を受けているが(この時点では非 A 非 B型肝炎の診断であると思われる)、感染について認識したのは 1993 年頃である。</p> <p>2002 年頃の治療内容は不明であるが、過去にインターフェロンによる治療を受け、経過観察の診断を受けている。現在は無症候性キャリアの診断を受けている。</p>
h 30	<p>C型肝炎については 1987 年頃に発症の診断を受けているが(この時点では非 A 非 B型肝炎の診断であると思われる)、1990 年頃に感染を認知している。</p> <p>1994 年頃にインターフェロンによる治療を受けていたが副作用により治療を中断した。</p> <p>2002 年頃及び現在を含む長期に渡って医療機関のフォローを受けている(現在は無症候性キャリア)。</p>
h 31	<p>C型肝炎については 1987 年頃に発症の診断を受けている(この時点では非 A 非 B型肝炎の診断であると思われる)。</p> <p>1993 年頃インターフェロン+グリチルリチンによる治療を受けている。</p> <p>2002 年頃は経過観察の診断を受けており、現在は慢性肝炎で経過観察の診断を受けている。</p>
h 32	<p>C型肝炎については 1986 年頃に発症の診断を受けているが(この時点では非 A 非 B型肝炎の診断であると思われる)、感染について認識したのは 1996 年頃である。</p> <p>1998 年頃にグリチルリチンによる治療を受けている。</p> <p>2002 年頃は経過観察の診断を受けており、現在は慢性肝炎で経過観察の診断を受けている。</p>
h 33	<p>C型肝炎については 1987 年頃に発症の診断を受けている(この時点では非 A 非 B型肝炎の診断であると思われる)。</p> <p>2002 年頃は患者の意向により未治療であるが、現在は慢性肝炎で経過観察の診断を受けている。</p>
h 34	<p>C型肝炎については 1987 年頃に発症の診断を受けている(この時点では非 A 非 B型肝炎の診断であると思われる)。</p> <p>2002 年頃は医療機関において治療の必要性がないと診断されており、現在は慢性肝炎でウルソによる治療を受けている。</p>
h 35	<p>C型肝炎については 1987 年頃に発症の診断を受けている(この時点では非 A 非 B型肝炎であると思われる)。</p> <p>1989 年頃にグリチルリチンによる治療を受けている。</p> <p>2002 年頃は医療機関のフォローを受けていたが患者の意向で未治療であり、現在は慢性肝炎と考えられ、医療機関のフォローを受けているが、治療内容は不明である。</p>
h 36	<p>C型肝炎については 1987 年頃に発症の診断を受けている(この時点では非 A 非 B型肝炎の診断であると思われる)。</p> <p>2002 年頃は医療機関において治療の必要性がないと診断されており、現在は無症候性キャリアで経過観察の診断を受けている。</p>
h 37	<p>C型肝炎については 1988 年頃に発症の診断を受けている(この時点では非 A 非 B型肝炎の診断であると思われる)。</p> <p>2002 年頃の治療内容は不明であるが、医療機関のフォローを受けている。</p> <p>2003 年頃に C型肝炎の感染を認識しており、現在は慢性肝炎で経過観察の診断を受けている。</p>

h 38	<p>C型肝炎については 1988 年頃に発症の診断を受けている（この時点では非 A 非 B 型肝炎の診断であると思われる）。</p> <p>1998 年頃にインターフェロンによる治療を受けている。</p> <p>2002 年頃の治療内容は不明であるが、医療機関のフォローを受けている。</p> <p>2006 年頃から 2007 年頃までインターフェロンによる治療によりウイルス陰性化した、治療後ウイルス陽性となった（現在は慢性肝炎）。</p>
h 39	<p>C型肝炎については 1988 年頃に発症の診断を受けている（この時点では非 A 非 B 型肝炎の診断であると思われる）。</p> <p>1988 年から現在まで医療機関において経過観察の診断を受けている（現在は慢性肝炎）。</p>
h 40	<p>C型肝炎については 1988 年頃に発症の診断を受けている（この時点では非 A 非 B 型肝炎の診断であると思われる）。</p> <p>1994 年頃にインターフェロンによる治療を受けている。</p> <p>2002 年頃に経過観察の診断を受け、腹部超音波及び血液検査を行っている。</p> <p>現在は慢性肝炎で経過観察と診断を受けている。</p>
h 41	<p>C型肝炎については 1994 年頃に認識したとのことであるが、1992 年頃及び 1993 年頃にインターフェロンによる治療を受けている。</p> <p>2002 年頃及び現在の治療内容は不明であるが、医療機関のフォローを受けている（現在は慢性肝炎）。</p>
h 42	<p>C型肝炎については 1989 年頃に発症の診断を受けている（この時点では非 A 非 B 型肝炎の診断であると思われる）。</p> <p>2002 年頃の治療内容は不明であるが、医療機関のフォローを受けており、現在は慢性肝炎で瀉血療法を行っている。</p>
h 43	<p>C型肝炎については 2001 年頃に発症の診断を受けている。</p> <p>2002 年頃の治療内容は不明であるが、医療機関のフォローを受けている。</p> <p>現在は慢性肝炎で経過観察の診断を受けている。</p>
h 44	<p>C型肝炎については 1989 年頃に発症の診断を受けている（この時点では非 A 非 B 型肝炎の診断であると思われる）。</p> <p>2002 年頃は医療機関において治療の必要性がないと診断されて未治療である。現在は無症候性キャリアで経過観察の診断を受けている。</p>
h 45	<p>C型肝炎については 1989 年頃に発症の診断を受けており（この時点では非 A 非 B 型肝炎であると思われる）、1990 年頃から 1991 年頃に感染について認識している。</p> <p>2002 年頃は医療機関において治療の必要性がないと診断されて未治療である。現在は慢性肝炎でウルソによる治療を受けている。</p>
h 46	<p>C型肝炎については 1990 年頃に発症の診断を受けている（この時点では非 A 非 B 型肝炎であると思われる）。</p> <p>2002 年頃は患者の意向で治療はなされていないが、現在はインターフェロン＋リバビリンによる治療を受けている（現在は慢性肝炎）。</p>
h 47	<p>C型肝炎については 1990 年頃に発症の診断を受けており（この時点では非 A 非 B 型肝炎の診断であると思われる）、同年に感染について認識している。</p> <p>2002 年頃の治療内容は不明であるが、2002 年頃も含め継続的に医療機関のフォローを受けており、現在は慢性肝炎で経過観察の診断を受けている。</p>

h 48	C型肝炎については 1990 年頃に発症の診断を受けており(この時点では非A非B型肝炎の診断であると思われる)、1991 年頃に感染について認識している。 2002 年頃は治療内容は不明であるが、医療機関のフォローを受けている。 現在は無症候性キャリアで経過観察の診断を受けている。
h 49	C型肝炎については 1996 年頃に検診にて認識している。 2002 年頃は医療機関において患者の同意が取れず未治療であるが、現在は慢性肝炎で経過観察の診断を受けている。
h 50	1992 年頃に肝炎の発症に対して、グリチルリチンによる治療を受けている。1992 年頃にC型肝炎の診断を受け、2002 年頃は経過観察の診断を受けている。

以上のとおり、2002 年頃の診療状況が治療中・医療機関のフォローありの者 50 人のうち、15 人 (h 1~15) は、2002 年頃に医療機関において治療を受けており、2002 年当時お知らせがなかったことによる治療の開始時期の遅れの可能性はないものと考えられる。残る 35 人 (h 16~50) も 2002 年頃に経過観察などの医療機関のフォローを受けており、2002 年当時お知らせがなかったことによる治療の開始時期の遅れの可能性はないものと考えられる。

○もともと感染していない可能性が高い者(5人)の詳細(1)

i 1	2002 年頃及び現在の診療状況は不明である。 HCV 抗体検査については 2001 年頃及び 2008 年頃に陰性。 HCV コア抗原検査については 2008 年頃に陰性。 もともと感染していなかった可能性が高い。
i 2	C型肝炎の発症については不明であるが、2002 年頃の HCV 抗体は陰性であり、もともと感染していなかった可能性が高い。
i 3	1999 年頃に HCV 抗体陰性であり、もともと感染していなかった可能性が高い。 1999 年に脳内出血で死亡している。
i 4	現在の HCV 抗体検査の結果は陰性。 もともと感染していなかった可能性が高い。
i 5	C型肝炎については 1988 年頃に発症の診断を受けている(この時点では非A非B型肝炎の診断であると思われる)が、薬剤性肝障害が疑われる。 2001 年頃に HCV 抗体陰性の診断を受けている。 2002 年頃及び現在、肝炎あるいは肝炎ウイルス感染がないため診療を受けていない。 もともと感染していなかった可能性が高い。

以上のとおり、上記 5 人 (i 1~5) については、HCV 抗体検査が陰性であり、過去にC型肝炎ウイルス感染と診断されたこともないことから、もともと感染していない可能性が高いと考えられる。この 5 人は、治療の必要がないことから、2002 年当時お知らせがなかったことによる治療の開始時期の遅れの可能性はないものと考えられる。

○自然治癒していた可能性が高い者（11人）の詳細（j）

j 1	1993年頃C型肝炎の発症の診断を受けている。 1998年頃、2000年頃及び2001年頃にHCV RNA陰性。 2002年頃は自然治癒の診断を受け、治療は行われていない。2008年頃も肝炎あるいは肝炎ウイルス感染がないため診療を受けていない。 自然治癒したものと思われる。
j 2	C型肝炎については2002年頃の状況は不明であるが、現在は経過観察中であり、医療機関のフォローを受けている。 HCV抗体検査については2007年頃に陽性。 HCV RNAについては2002年頃及び2007年頃に陰性。 自然治癒したものと思われる。
j 3	C型肝炎については1986年頃に発症の診断を受けている（この時点では非A非B型肝炎の診断であると思われる）。 2002年頃は肝炎あるいは肝炎ウイルス感染が認められなかったと診断されており、現在もC型肝炎ウイルスが認められず、治癒の診断を受けている。 自然治癒したものと思われる。
j 4	C型肝炎については1987年頃に発症の診断を受けている（この時点では非A非B型肝炎の診断であると思われる）。 1990年頃までグリチルリチン等による治療を受けている。 1996年頃、1997年頃及び2003年頃にHCV RNA陰性であった。 2002年頃に経過観察の診断を受け、現在は治癒の診断を受けている。 自然治癒したものと思われる。
j 5	C型肝炎については1987年頃に発症の診断を受けている（この時点では非A非B型肝炎の診断であると思われる）。 1998年から2006年は医療機関で受診していないが、現在は治癒の診断を受けている。 自然治癒したものと思われる。
j 6	C型肝炎については1987年頃に発症の診断を受けている（この時点では非A非B型肝炎の診断であると思われる）。 2002年頃の診療状況は不明であるが、現在は感染していないとの診断を受けている。 自然治癒したものと思われる。
j 7	C型肝炎については1987年頃に発症の診断を受けている（この時点では非A非B型肝炎の診断であると思われる）。 2002年頃は医療機関において治療する必要がないと診断されており、現在もC型肝炎ウイルスに感染していないとの診断を受けている。 自然治癒したものと思われる。
j 8	C型肝炎については1987年頃に発症の診断を受けている（この時点では非A非B型肝炎の診断であると思われる）。 1993年頃にHCV抗体陽性。 1994年頃に治癒の診断を受けている。 1997年に死亡している（死因の詳細は不明）。 自然治癒したものと思われる。
j 9	C型肝炎については1987年頃に発症の診断を受けている（この時点では非A非B型肝炎の診断であると思われる）。 1994年頃その他科受診時にHCV抗体陽性。以降、毎年検診でHCV抗体陽性と診断されている。 2002年頃の治療内容は脂肪肝及び糖尿病予備群に対するものであり、現在は治癒の診断を受けている。 自然治癒したものと思われる。

j 10	C型肝炎の状況及び2002年頃の診療状況は不明であるが、現在は医療機関において経過観察中である。 2008年1月時点でHCV抗体検査低力価陽性、HCV RNA陰性であり、治癒の診断を受けている。 自然治癒したものと思われる。
j 11	C型肝炎については1988年頃に発症の診断を受けている（この時点では非A非B型肝炎の診断であると思われる）。 1998年頃はグリチルリチンによる治療を受けていたが、現在は、経過観察の診断を受けている。 2007年11月時点でHCV抗体検査低力価陽性、HCV RNA陰性であり、治癒の診断を受けている。 自然治癒したものと思われる。

以上のとおり、上記11人（j 1～11）については、肝炎発症時非A非B型肝炎と診断されたものを含み、C型肝炎ウイルスに感染したことが確認された後、インターフェロン治療によらず、比較的早期に治癒していることから、自然治癒したものと考えられる。このため、2002年頃には治療の必要もなく、2002年当時お知らせがなかったことによる治療の開始時期の遅れの可能性はないものと考えられる。

○2002年時点で死亡していた者（10人）の詳細（k）

k 1	1987年頃に製剤を投与されており、同年に肝炎発症の診断を受けている（この時点では非A非B型肝炎の診断であると思われる）。 同年に非A非B型劇症型肝炎による肝不全で死亡している。
k 2	1986年頃に製剤を投与されており、同年に肝炎発症の診断を受けている（C型肝炎ウイルスに感染していたかどうかは不明）。 同年に肝不全で死亡している。
k 3	1986年に製剤を投与されており、同年に肝炎発症の診断を受けている（C型肝炎ウイルスに感染していたかどうかは不明）。 同年に肝不全で死亡している。
k 4	1986年頃に製剤を投与されており、同年に肝炎発症の診断を受けている（C型肝炎ウイルスに感染していたかどうかは不明）。 1992年に心不全で死亡している。
k 5	1987年頃に製剤を投与されており、同年に肝炎発症の診断を受けている（この時点では非A非B型肝炎の診断であると思われる）。 1992年頃にインターフェロンによる治療を受けている。 1999年に敗血症で死亡している。
k 6	1987年頃に製剤を投与されており、1989年頃に肝炎発症の診断を受けている。 1992年頃に直腸がん・転移性肝がん で死亡している。
k 7	1987年頃に製剤を投与されており、同年に肝炎発症の診断を受けている（C型肝炎ウイルスに感染していたかどうかは不明）。 1996年頃に解離性大動脈瘤で死亡している。
k 8	1987年頃に製剤を投与されており、同年に肝炎発症の診断を受けている（C型肝炎ウイルスに感染していたかどうかは不明）。 1995年に気管支拡張症による肺出血で死亡している。

k 9	1992年頃に製剤を投与されており、同年にC型肝炎発症の診断を受けている。 1992年頃にインターフェロン+グリチルリチンによる治療を受けている。 1999年に再生不良性貧血で死亡している。
k 10	1987年頃に製剤を投与されており、同年に肝炎発症の診断を受けている（C型肝炎ウイルスに感染していたかどうかは不明）。 1992年に慢性心不全で死亡している。

以上のとおり、2002年時点で死亡している者について、1人(k 1)は1980年代に非A非B型劇症肝炎で死亡しているためC型肝炎が死亡原因であるかは不明であるが、残りの9人はC型肝炎が死亡原因とはなっていなかった。この10人(k 1~10)については、2002年頃には既に死亡しており、2002年当時お知らせがなかったことによる治療の開始時期の遅れの可能性はないものと考えられる。

3) 分析のまとめ

以上みてきたとおり、それぞれの区分に応じて、2002年当時フィブリノゲン製剤投与の事実のお知らせ等がなかったことにより治療の開始時期が遅れた症例があるかどうか個別に検証してきたところである。

その結果のとりまとめは図表21のとおりであるが、102人のうち100人については、2002年当時お知らせがなかったことによる治療の開始時期の遅れの可能性はない又は少ないものと考えられる。

残りの2人のうち、1人(A 1)は2004年の診断後、インターフェロン治療を開始しているが、2002年頃は医療機関にかかっておらず、2002年当時お知らせがなかったことによる治療の開始時期の遅れの可能性は否定できないというものであった。残る1人(E 2)は死亡原因、死亡時期、診療状況に関する情報がなく治療の開始時期の遅れの可能性があったかどうかの判断ができなかった。

このように、今般の症例分析では、1例が、2002年当時お知らせがなかったことによる治療の開始時期の遅れの可能性は否定できないとの結果であるが、

- ① 調査票の送付後に改めて調査への協力をお願いするなど、調査票を返送いただけるよう努力を尽くしたものの、調査への協力は任意であることもあり、今回回答のあった調査票は102件であったこと、
- ② 今回の調査票は基本的に医師が記入することから、医療機関との関係がある程度密接な人が多く、返送された調査票の回答には偏りがあるこ

とも考えられること、

- ③ 今回の調査は過去の診療状況や感染の事実の認知状況を質問しているが、空欄等も多数あったこと、
 など、この調査の性格上、限界もあったことに留意する必要がある。

図表 21 症例分析のとりまとめ（結果のみ）

区分	感染認知・時期	2002年頃の診療状況	治療の開始時期の遅れの有無
A (1人)	2002年7月以降	医療機関にかかっていなかった	2002年頃は医療機関にかかっておらず、症状の有無、治療の必要性については不明であるが、2004年になってインターフェロン治療を開始しており、2002年当時お知らせがなかったことによる治療の開始時期の遅れの可能性は否定できない。
B (2人)		無回答	2人とも治療の開始時期の遅れの可能性は少ないものと考えられる。
C (1人)	不明又は無回答	医療機関にかかっていなかった	治療の開始時期の遅れの可能性は少ないものと考えられる。
D (4人)		過去に治療した	4人すべて治療の開始時期の遅れの可能性は少ないものと考えられる。
E (2人)		無回答	2人のうち1人は、治療の開始時期の遅れの可能性はないものと考えられる。残る1人は、死亡原因、死亡時期、診療状況に関しての情報が不明であり、治療の開始時期の遅れの可能性があったかどうかの判断は難しい。
f (13人)	2002年7月前	過去に治療した	13人すべて治療の開始時期の遅れの可能性は少ないものと考えられる。
g (3人)		無回答	3人すべて治療の開始時期の遅れの可能性がない又は少ないものと考えられる。
h (50人)		治療中・医療機関のフォローあり	50人すべて治療の開始時期の遅れの可能性はないものと考えられる。
i (5人)		もともと感染していない可能性が高い	5人すべて治療の開始時期の遅れの可能性はないものと考えられる。
j (11人)		自然治癒していた可能性が高い	11人すべて治療の開始時期の遅れの可能性はないものと考えられる。
k (10人)		2002年時点で死亡	10人すべて治療の開始時期の遅れの可能性はないものと考えられる。